

KALBAS レーザーマーカーク専用ラベルの販売を促進

システム含めトータルソリューション提案

㈱KALBAS（愛知県春日井市如意申町、山尾裕一社長、☎0568・32・1354）では現在、レーザーマーカーク専用ラベルのトータルソリューション展開に向けた取り組みを推進。家電や電子機器といった工業分野を対象とする情報管理をはじめ、銘板、屋外使用機器向けなどで、同ラベルの採用メリットを訴求している。

同ラベルはYAGやファイバーなどのレーザーを照射することで、基材内部に積層したアルミニウム層が

除去され、下層の黒インク層が露出。文字などを可視化することにより、印字が可能となる。ラベル基材の表面には透明の保護層が形成されており、レーザー光は保護層を透過して印字するため、情報が摩擦や溶剤などでかすれたり消失したりすることがなく、優れた耐久性を実現する。

同ラベルの優位性について、製造開発部の広瀬賢二テクニカルスペーバイザーは「工業向け可変情報ラベルの印字方法は一般的に、熱転写プリンタが用い

られる。ただし使用環境によって耐久性が求められる場合、インクリボンを用い

て印字した後に、ラミネート加工などの工程を経る。一方、レーザーマーカークによる印字はインクリボンが不要であり、あらかじめ保護層を形成しているため、



レーザーマーカーク専用ラベル（上）とともにレーザーマーカークも販売

リボン装着やラミネート加工といった工程を簡略化するとともに、環境負荷の低減にも貢献する」と説明する。

加えて貼付後に剥離した際には、印字内容の一部が被着面に残ることから、ラベルの貼り直しや再利用などの不正を防止するといった特徴も有する。

同ラベルは銀ネーミングの

光沢とマット調の2種類をラインアップ。さらに同社では、ラベルのみの供給にとどまらず、レーザーマーカークについても海外メーカーと提携し、トータルソリューションへの取り組みを図ることで、需要開拓を推進する。

同メーカーのビジネス展開について、営業開発部の香川貴洋チーフは「当社がユーザーへアプローチする際、これまでは印字するためのレーザーマーカークをユーザーが独自に設備する必要があった。そこで海外メーカーと協働することで、サプライとシステムを包括した提案を行うことで、ニーズの掘り起こしを図る」と話している。